

## アメリカ穀物協会が2015年のトウモロコシ生産に関するビデオシリーズの第2部を公開、生育期の状況に焦点

アメリカ穀物協会から2015年の米国産トウモロコシの生育期の状況を経時的に追ったビデオがオンラインで公開されました。これはアメリカ穀物協会による3部のビデオの第2部となりますが、アイオワ州、ミネソタ州とテキサス州の状況に焦点を当てています。

このビデオは <http://tinyurl.com/corncrop15> にてオンラインでご覧いただけます。コーンベルトでは夏の良い天候にも恵まれ、春に順調にスタートを切ったトウモロコシの作柄はおおむね良好ですが、春に降雨量の多かった南西部の地域では、引き続き平年より降雨量の多い状況が続いているところもあります。

テキサス州の生産者チャド・ウェツェル氏は「今年になってからこれまでずっと、本当に降雨の多い状況が続いています。4月と5月には記録的な降雨に見舞われました」と6月に述べていました。

しかしウェツェル氏の農地のある地域では、受粉期に乾燥した天気に恵まれた日々がありました。乾燥した天気の方がトウモロコシの受粉に適しているため、これで単収が上がります。

農業技術も生産者が単収を上げるために役に立っています。

「今日、GPS（衛星測位システム）を使うことによって、農地で起こっていることの概観をシンプルなデジタルフォーマットで把握することができます。そして翌年のハイブリッド種子の選択にそのデータを利用し、農業生産の改善に役立っています」とアイオワ州のトウモロコシ生産者、マーク・ヘックマンは述べています。

農業技術、農地管理、そして天候条件がかみ合うことによって、素晴らしい収穫をあげることができます。ミネソタ州では、今年、春先に低温によるストレスがありましたが、気温が上がるにつれて、生育が始まりました。

「初期にストレスが多く、トウモロコシが35センチに成長するまでに2か月かかりました。しかし、その後の2週間で私の身長ほどにまで急成長しました。最終的には、ミネソタ州の作柄はとびぬけて良く、記録的な作況に向かっているのではないかと思います」と、ミネソタ州のトウモロコシ農家であるゲーリー・プーラスは言っています。

このことは全米で当てはまります。米国農務省の9月の世界農業需給予測（WASDE）報告での今年のトウモロコシ収穫量は136億ブッシェル（3億4,500万トン）と予測されています。

次回のビデオは晩秋に公開しますが、その中でそれぞれの生産者から彼らのトウモロコシの最終的な単収について聞く予定です。■

### U.S. Grains Council

Email: [grains@grains.org](mailto:grains@grains.org)  
[www.grains.org](http://www.grains.org)

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

### U.S. Headquarters

20 F Street NW  
Suite 600  
Washington, D.C. 20001  
207.789.0789 TEL  
202.898.0522 FAX

### アメリカ穀物協会 日本事務所

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門 1-2-20  
第3虎の門電気ビル 11階  
TEL: 03-6206-1041  
FAX: 03-6205-4960

Developing  
Markets.

Enabling  
Trade.

Improving  
Lives.